

田中研新聞

第20号

2015年
4月1日発行

2015年4月1日号

甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長・岡田 航大 (B4)
編集委員・吉岡 一樹 (M2)

田中研ゼミ旅行へ

三重県伊勢市・鳥羽市

今年のゼミ旅行は三重県伊勢市、鳥羽市でした。三重県は関西なのか東海なのかで論争が起る県ですが、それはともかく観光にはうってつけの都市です。そんな中、今回足を運んだのは①国内最多の飼育種類数を誇る鳥羽水族館②昔ながらの白い磯着の海女さんを見られる唯一の場所ミキモト真珠島③鳥羽湾を一望できるフェリーに乗って向かうイルカ島④言わずもがな三重県最大の名所伊勢神宮に行つてまいりました。そんな中でも鳥羽水族館と伊勢神宮を紹介してい



がらの白い磯着の海女さんを見られる唯一の場所ミキモト真珠島③鳥羽湾を一望できるフェリーに乗って向かうイルカ島④言わずもがな三重県最大の名所伊勢神宮に行つてまいりました。そんな中でも鳥羽水族館と伊勢神宮を紹介してい

ネットでは103時間の生放送を行ったダイオウグソクムシが飼育されているへんな生きもの館、さらには水中で生活する生物ではないカビバラやフランギンゴなども飼育されています。予定時間ではとても周りきれず、延長に延長を重ねてもすべてを見ることはできませんでしたが、アシカショーやセイウチショーなど時間帯が決まっているものも運よく見れました。

伊勢神宮は、当新聞でも昨年野々口さんが記事にされていましたが、昨年遷宮されたばかりです。つまり、見た目がかなり綺麗です。神宮と言われて想像するのは長く建っている古めかしい建物なのに、いざ見るととても綺麗。私自身、前々回の遷宮は0歳で、前回の遷宮からは1度も参拝していないため、実質初めて遷宮1年後の建物を見ましたが、わかつてはいても少し複雑な気分になりました。しかし周りの木などは樹齢1000年を超えるものもあり、やはりパワースポット独特の空気というものは感じました。また、伊勢神宮周辺にはおかげ横丁（おまわり横丁）と呼ばれるものがあり、そこにはお土産によく利用される赤福餅の本店を代表に、様々なお土産屋があります。独特の街並みですが、年々少しずつお店が増えてきているので、次に行く機会が楽し

鹿児島大学研究会
田中教授と郭・吉岡が参加

3月16日に鹿児島大学で行われた合同研究会に参加してきました。私は「屋外環境における自律移動型ロボットの人物追跡」というタイトルで発表しました。発表中に緊張し言葉に詰まることもありましたが、15分以内にきっちり収めることができ、練習した甲斐がありました。また、聴衆者も少なかつたため発表後に気軽に鹿児島大学の先生方から様々な質問を受け、良い刺激にもなりこれからも頑張っていこうと想いました。

また、鹿児島大学の学生によるデモで一番印象に残ったのが、kinectで取得した3点のデータを使用した室内状況のマッピングでした。取得したデータ



ゼミ旅行に参加して何よりもまずは楽しかったです。来年も行きたいと思えました。さて来年はいつたどこになるのか？今回は比較的近かったのですが遠いのか、と予想をしつつ行き先が今から楽しみです。

(岡田航大)

新年度を迎えるにあたって

いま、IT関係の仕事が非常に熱いです。アメリカの転職サイト「ロバート・ハーフ」によると、年収の伸び率が最も高いとされている10の職業では、1位…携帯アプリ開発者、2位…データ構築技術者、3位…最高セキュリティ責任者、4位…携帯電話デザイナーというように、我々、いや、皆さんがその気になればなれる仕事トップに並んでいます。この状況はこれからさらに強まることはあっても、弱まることはあり得ません。皆さんはともよい分野を専攻しているといつて良いでしょう。こういう、他の分野の人からは羨望の目で見られるところにいる当事者である皆さんに自覚はあるでしょうか。そ

私自身、還暦まであと1年となりましたが、自分の

(田中雅博)

ちよつといい方法教えます

第1回 外国旅行の荷物

明日(25日)から外国出張ですが、私が実践している、旅行の荷物を増やさない方法を伝授します。外国旅行といえ、たいは5日から7日くらいは行くものです。しかし、旅行中に洗濯をしても乾かす場所がなかったり、また、そのために大きなスーツケースを持つのもやっかいです。私はいつも小さめのスーツケースで済ませます。その方法は、捨てても良い衣類を持って行くことです。家には、古くなって捨てるでも良い下着類がたくさんあります。そこで、海外旅行のときにそれを持っていき、毎日脱いだらそのまま捨てるのです。そうすることで、1週間くらいの旅行なら洗濯をすることもなく毎日荷物が少なくなりますので、そこに買ったお土産を入れていくので

60代はベンチャーをやるうと考えています。自分が開発したシステムを社会に普及させることを夢としています。今の日本は、足の引つ張り合いで、何をしてもひどい目にあいますが、それをもととせず、自分の道を切り開きたいと考えています。そんな大きな事を言つて大丈夫かって？自分の人生、一度しかなく、それも、うっかりしていたらすぐにぼけ老人になりたうな年齢です。ここで大風呂敷を広げずにどうやって自分の人生の終盤戦を前にして恐れずに進めるのか？他に方法は思い浮かびません。そういう私と一緒に、皆さんも大きく花を咲かせませんか？

(田中雅博)



東海道沿線鈍行の旅

18きっぷで東海や関東方面

今後まとまった時間を取れないかもしれないので、大群と野々口の2人で青春18きっぷを使って静岡や神奈川を巡ってきた。青春18きっぷはJRの在来線であれば、1日乗り放題になる切符であり、冬春夏に各40日ずつの特定の期間のみ使用することができる。私はこれまで岡山香川方面への旅行や、名古屋方面での就活に使い、とても重宝している。

今回静岡神奈川方面に行

ったのは、青春18きっぷで行くのに丁度良い距離だったのと、これまでに行く機会がなかったからだ。静岡は新幹線で通過するので何度も通っているが、降り立って散策したことはなかった。神奈川も野々口が学会で横浜に行ったが、その周辺には行ってない。大群に至っては乗換でしか降り

たことがなかった。

そうして旅行の計画を立てるためにいろいろ調べてみたわけだが、静岡はあまり交通の便が良くない。行きたいと思つた場所を調べてみると駅からバスで30分程度かかる。車かバイクで回つたほうが圧倒的に効率が良さそう。また、都合で2泊3日と時間的な制約があったので、今回は浜松と鎌倉に限定して回ることにした。

旅行の多くは移動時間である。電車は各駅停車の区間も多く、在来線で神戸から東京まで最短で向かって9時間半もかかるし、それに加えバスや私鉄を乗り継ぐと、もっと時間が掛かる。初日は朝から電車を乗り継ぎ昼過ぎに浜松に到着。時間は中途半端なので、その日は駅から徒歩で行



（大群裕）

る浜松城を散策した。そのまま浜松で宿泊し、2日目はバスで航空自衛隊の施設であるエアパークに行つた。そして昼からはまた電車で移動し、神奈川の平塚で宿泊。3日目は朝から昼すぎまで鎌倉を散策し、東京まで移動して秋葉原に着つた。途中富士山が見えるスポットにも寄りたかつたのだが、天気が悪かつたのとスケジュールが押していることもあり、結局今回は電車内から眺めるだけとなった。

静岡には三保の松原や日本平のように富士山の景色を望んだり、竜ヶ岩洞、駒門風穴のように、自然を楽しむスポットが多く、行きたかつたのに行けなかつた場所が沢山残っている。また、今回はかなり駆け足気味な旅行だったので、時間を見つけて静岡の行つていない地域にも行ってみたい

研究室生活を振り返って

大群 裕

ゼミ配属のとき、ロボットの研究に興味を持っていたので田中研を志望しました。配属後は希望していた通り、ロボットの自律移動に関する研究をすることができ、さらに大学院を修了するまでその面白さを感じ続けることができたのは、とても幸運なことだと思っています。これは研究内容がただ好きだっただけではなく、田中教授の指導や研究室の皆さんの協力のおかげです。また、自由にロボットやセンサ等の機材を触らせてもらうことができ、とても有意義な研究室生活をおくることができました。

3年半の研究生活では、ロボットの研究だけでなく、先輩から指導を受けたり逆に後輩に指導したり、他研の先生と交流したりと様々な人と関わることでできたと思います。この生活も終わり、どうしよう社会人になります。多くの試練が待ち受けていると思いますが、田中研究室で学んだことを活かしていきたいです。

野々口 誠人

学会発表、オープンキャンパス、ナレッジキャピタル、その他イベントなど修士論文を書くまでに本当にいろいろあったが、ようやくこの日を迎えることができました。入学当初はこんなことになるとは夢にも思わなかったが、自分の中の大きな目標として「残せるもの

を作りたい」、それを達成することができてよかった。そんな中、発表前日まで論文を書き直すなどしていたので、当日までドタバタしてしまい、練習も不十分であった中本番を迎えることとなった。中間発表を終えてKinectを新しいハードに変え、仕様を変更された部分であったり、その他作成したアルゴリズムの説明をする必要があったので、全体的に説明不足になることははじめからわかっていたが案の定そうだった。そのため質問はそれを補足するもののみだったため、発表中に特に問題となることはなかった。引き継ぎなど発表が終わってからやるべきことが多く残されているが、残して行ける部分を可能な限り残すことができればと思う。

わたしの訪れた町

第12回 上海

上海は、中国の内陸部にいくときの入り口としてよく訪れる場所である。私は、居住している岡山から直行便があるため、今まで上海そのものに用事があるとき以外にも、武漢、鄭州に行くときに上海から足を踏み入れた。ちなみに、岡山から到着する上海の国際空港は浦東空港であり、国内線は多くが出ている虹橋空港の間はタクシーで町中をぶつちぎって1時間くらいかかる。上海は、地下鉄で自由に動き回れる。言わずと知れた大都市であり、超高層ビルが建ち並んでいるが、交通網などは東京の足元にも及ばず、東京に行つ

たときのような恐怖（東京の人はこの意味を理解できるだろうか？）もなく、地下鉄のチケットを未だに人が売っているところを見ると、人の流れもさほどではない。上海の観光では、豫園を外すことはできないだろう。中国の伝統的な街路の中にある中国庭園である。一歩外には、洗濯物を軒先にぶら下げている狭い家がひしめきあっており、タイムスリップしたような印象を受ける。最後に訪れたのは、2011年夏である。鄭州での国際会議の際に、上海経由だった。このときは上海は

有年 恵 魅

こんにちは、有年です。卒論発表も終わり、少しほっとしている今日この頃。私は、プログラミングが大の苦手でした。しかし、手のままではいけないと思つた。田中研究室に入りまして、卒業研究は思ったよりも大変で、うまくいかなくて、最後の最後まで終わらなくて泣きそうになりました。毎日研究室にきていました。それも良い思い出になりました。1つこのことを最後までやり遂げることを大切さを改めて実感しました。挫折そうになりながらも、ここまでやってこれたのは、田中研究室のみんなのおかげです。最後まで、指導してくださった田中先生、たくさんアドバイスをしてくださった院生の方々、そして、励ましてくれた4回生のみんな

が居てくれたからです。本当にありがとうございます！また会う日まで！！

編集 後記

今号より編集を岡田が務めさせていただきます。実はゼミ旅行の後に三重県にも一度訪れました。両親の仕事の関係で、三重県自体はかなりの回数訪れており、往復した回数は20回を超えています。大体3日くらいはいますので、日付換算すると2か月程のことになります。ほほほほ第二の故郷です。ですが、実は観光地という観光地に行つたのは経験の最初の方だけで、鳥羽水族館も真珠館もイルカ島も初めてで、本当に鳥羽再発見！みたいな感じでゼミ旅行は心から楽しんでました。



個人的におすすみたいガイドブックにも載り辛い三重のおすすすめスポットを3つ挙げさせて頂くと①「黒潮」こちらの海鮮丼は絶品です。冬場だと焼牡蠣なども美味しいですが、車がないと行き辛いです。②「蘇民」こちらは道の駅です。賞味期限が近い（それでも1か月程もつ）お土産を安値（350円前後）で買えます。また、手作りのきな粉餅や、獲れたての魚が安く手に入ります。③「イオンモール明和店」今でこそ珍しくないですが、超大型ショッピングモールです。1日潰せます。実は三重県はイオン発祥の地です。次の渡航予定は夏場ですが、行き過ぎても三重は飽きません。ただ、楽しみ方が年々地元民っぽくなってます。（岡田航大）